

心理学

| | | | |
|--------------|--------------------------|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 人間科学科心理学・行動科学分野 | | |
| 担当教員 | 藤澤 美穂 講師 | | |
| 対象学年 | 1 | 区分・時間数 | 講義 12 時間 |
| 期間 | 前期 | | |

・学習方針（講義概要等）

心理学は、「こころ」を科学的にとらえる学問のひとつであり、人間を探求する学問である。心理学では人間のもつ「こころ」の動きを理解するため、知覚・行動・感情などを対象とした実験・調査等がおこなわれ、また観察等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。テレビや雑誌等で日常的に目にする「心理テスト」は、心理学から得られた知見をわかりやすく抽出したものではあるが、学問としての心理学においては、概念の定義、論理の整合性、科学的方法論等が重視され、より学術的で厳密な態度が求められる。

本科目においては、心理学の歴史に沿って、心理学における基礎と応用の両視野を学ぶ。また学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、健康心理学、産業心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きと行動への影響を考える。

本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付けることを目指す。

・教育成果（アウトカム）

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学び、ものごとを心理学的視野により説明することができる。
2. こころと行動の理解を通して、個人・社会において生じる現象を相互作用的にとらえ、説明することができる。
3. 見えない“こころ”を理解するための多様な方法を学び、現象の背景を探求するための視点を獲得することができる。（ディプロマポリシー：1,2,3,4）

・到達目標（SBO）

1. 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解し、説明できる。
2. こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様な視点を身につけることができる。
3. 個人と他者、個人と集団の相互作用について理解し、説明できる。
4. 自分の「こころ」への興味関心を高く保つことができる。

【講義】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容/到達目標 |
|------|----|----|------------|----------|--|
| 6/14 | 火 | 2 | 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>心理学とその歴史【双方向授業】 【ICT(Mentimeter)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.心理学の誕生までの歴史を説明することができる。 2.見えない“こころ”へのアプローチ法について、述べることができる。 <p>事前学習：教科書 1～12 ページを読んでおく。 事後学習：講義資料を復習する。 [B-3-2)-⑦]</p> |
| 6/21 | 火 | 2 | 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>心理学でいう「学習」について【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.心理学の「学習」の定義を述べることができる。 2.古典的条件づけについて説明できる。 3.オペラント条件づけについて説明できる。 4.行動主義とそれまでの心理学との関係について、述べることができる。 <p>事前学習：前回講義で出された課題に取り組む。 事後学習：講義資料を復習する。 [B-3-2)-⑦]</p> |
| 6/28 | 火 | 2 | 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>認知心理学-特に記憶について【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.認知理論が重視されるようになった経緯を説明できる。 2.記憶のモデルについて説明できる。 3.Miller の直接記憶範囲について説明できる。 4.知覚的防衛について、説明できる。 <p>事前学習：前回講義で出された課題に取り組む。 事後学習：講義資料を復習する。 [B-3-2)-⑦]</p> |

| | | | | | |
|------|---|---|----------------|----------|--|
| 7/5 | 火 | 2 | 心理学・ 行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>社会心理学の視点から「集団」を考える 【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.認知的一貫性理論について、身近な例を当てはめ説明することができる。 2.同調行動について、説明できる。 3.パーソナル・スペースについて、説明できる。 <p>事前学習：教科書 182～195 ページを読んでおく。 事後学習：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [B-3-2)-⑦]</p> |
| 7/12 | 火 | 2 | 心理学・ 行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>臨床心理学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.臨床心理学の歴史を説明できる。 2.臨床心理学の主要 4 領域を述べることができる。 3.欲求と葛藤について、説明できる。 4.愛着について、説明できる。 5.多職種連携にかかわる心理職（公認心理師・臨床心理士等）の職能について理解し、説明できる。 <p>事前学習：教科書 116～124 ページを読んでおく。 事後学習：講義資料を復習する。 [A-5-1)-⑤、B-3-2)-⑦、E-5-3)-③]</p> |
| 7/19 | 火 | 2 | 心理学・ 行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>ストレスの心理学【双方向授業】 【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ストレスの定義を述べることができる。 2.ストレスに関するところと身体の相関性を説明できる。 3.心理的ストレスプロセスモデルについて説明できる。 <p>事前学習：現代人のストレスについて、インターネットで調べる。 事後学習：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [B-3-2] -⑦]</p> |
| 7/26 | 火 | 2 | 心理学・ 行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>働くことの心理学【双方向授業】 【ICT(Mentimeter)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.職業性ストレスモデルについて説明できる。 2.バーンアウトについて説明できる。 3.ワーク・エンゲイジメントについて説明できる。 |

| | | | | | |
|------|---|---|------------|----------|--|
| | | | | | <p>4.ワークライフバランスについて、自身の意見を述べるができる。</p> <p>事前学習：仕事におけるストレスについてまとめておく。どういう職場環境で働きたいかまとめておく。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 [B-3-2)-⑦]</p> |
| 7/27 | 水 | 2 | 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 講師 | <p>思春期青年期の理解【双方向授業】</p> <p>1.思春期と青年期の概念を理解し、述べるができる。</p> <p>2.恋愛にかかわる感情の動きを理解し、相手を尊重した関係の重要性を述べるができる。</p> <p>事前学習：教科書 179 ページを読み、まとめておく。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 [B-3-2)-⑦]</p> |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|-------------------------|---------|------|------|
| 教 | 図説心理学入門 第2版 | 齊藤勇（編） | 誠信書房 | 2005 |
| 参 | 心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで | 越智啓太（編） | 創元社 | 2016 |

・成績評価方法

試験の成績を 50%、レポートの評価を 30%、授業中に実施するワークへの取り組みを 10%、確認テストの成績を 10%として評価する。ワークへの取り組みは、提出（入力）されたワーク内容を対象とする。評価は初回講義で示す「ワークシート評価基準」に従い評価する。

・特記事項・その他

本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。また WebClass によるワークやコメント入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれでも参加可能である。

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学習課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。講義中、事前学習内容をコメントシートに記載する時間を設ける。各回講義に対する事前学習の時間は最低 30 分以上を要する。

事後学習については毎回配布される講義資料（レジュメ）と教科書等を用いておこなうこと。各回講義に対する事後学習の時間は最低 30 分以上を要する。

【事前学習・事後学習のポイント】

事前学習：次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。

事後学習：わからなかった内容は、講義にて示した教科書の該当箇所を確認し理解を深めること。
また興味をもった箇所は図書館の文献などで調べること。

学生からの授業に対する意見や質問については、WebClass のメッセージから随時受け付ける。授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

定期試験の後にフィードバックとして補講等を実施する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|---|----|------------|
| 講義 | ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A) | 1 | 講義資料の提示 |
| 講義 | プロジェクター | 1 | 講義資料・教材の提示 |
| 講義 | DVD (BR)プレーヤー | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | 書画カメラ | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017)) | 1 | 講義資料の作成 |